

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第 11 回 松阪市政推進会議
2. 開 催 日 時	平成 30 年 5 月 15 日（火）午後 1 時 30 分～午後 3 時 35 分
3. 開 催 場 所	松阪市役所 議会棟 第 3・4 委員会室
4. 出 席 者 氏 名	出席委員：村林守委員、岡山慶子委員、酒井由美委員、高島信彦委員、中川昇委員、西岡裕子委員、平岡直人委員、三井嬉子委員、吉田悦之委員、米山哲司委員、渡邊幸香委員 欠席委員：梅村光久委員、佐藤祐司委員、松浦信男委員、村田吉優委員 事 務 局：竹上市長、山路副市長、永作副市長、加藤企画振興部長、刀根経営企画課長、川上政策経営係長
5. 公開及び非公開	公開
6. 傍 聴 者 数	2 人（内、報道関係 2 社）
7. 担 当	松阪市企画振興部 経営企画課 TEL 0598-53-4319 FAX 0598-22-1377 e-mail kei.div@city.matsusaka.mie.jp

・ 事項、議事録は別紙のとおり

第 11 回 松阪市政推進会議 議事録

1. 日 時 平成 30 年 5 月 15 日（火） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 35 分
 2. 場 所 松阪市役所 議会棟 第 3・4 委員会室
 3. 出席者 村林守委員、岡山慶子委員、酒井由美委員、高島信彦委員、中川昇委員、西岡裕子委員、平岡直人委員、三井嬉子委員、吉田悦之委員、米山哲司委員、渡邊幸香委員
- ※欠席者 梅村光久委員、佐藤祐司委員、松浦信男委員、村田吉優委員

〔事務局〕竹上市長、山路副市長、永作副市長、加藤企画振興部長、刀根企画振興部経営企画課長、川上企画振興部経営企画課政策経営係長

1 市長あいさつ

お忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。後ほど委嘱状を交付させていただきますが、本日から 2 期目の任期となりますので、よろしく申し上げます。

今期から新たにメンバーを増やしまして、観光分野で大変お世話になっている岡山慶子さんをお迎えしました。よろしく申し上げます。

松阪市には、様々な会議がありますが、この会議は、唯一市長自らが最初から最後まで出席する会議です。委員の皆さんからご意見をいただくこととなりますが、松阪市で何をすればいいのか、ご意見をいただければと思います。

地方では人口減少が進んでいます。市町が必死になって解消に向けた努力をしているが、全国で同じようなことをやっていると感じる。移住であれば、毎日のようにどこかの自治体が移住フェアを開いている。たくさんの方が聞きに来てくれるようだが、それほど効果があったわけではない。やり方次第では変わる。ヒントをいただいて、変わるべきところを変えていきたい。

この会議には、改革の推進力になっていただきたい。毎回テーマを設定するが、ざっくりばらんな話を聞かせてほしい。そういうことが新規事業に繋がっている。2 年間ではありますが、どうぞよろしく申し上げます。

2 委嘱状の交付

竹上市長より交付

3 自己紹介

4 松阪市政推進会議規則及び開催日程について
事務局より説明

5 会長・副会長の選出
会 長 村林 守
副会長 梅村 光久

※松阪市政推進会議規則第 5 条により、会長が会議の進行を行う。

○ 会議の公開・非公開の決定

会長)

本日が通算第 11 回目、第 2 期目の最初の会議となります。どうぞよろしくお願いいたします。

では会議を始めます前に、本日の会議の公開・非公開を決定する必要がありますが、本日の議題は、「若者を地域に残す取組について」であります。若者の流出が激しい松阪市において、どのような取組をすれば地域に残ってもらえるのか、現在の取組を市長からお聞きし、その後、委員の皆様からのご意見を頂戴したいと思います。

本日の会議については、個人に関する情報などの非公開情報のご発言はお控えいただくことをお願いしまして、公開させていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

(異議なし)

会長)

では、本日も公開で開催します。

6 協議事項

1) 若者を地域に残す取組について

会長)

では、事項書に沿って進めてまいります。

事項書 6 の協議事項 1) 若者を地域に残す取組について、竹上市長より説明をいただきます。

市長)

松阪市の状況を言いますと、1月1日現在の住民基本台帳の人口では、毎年1000人規模で減少している。自然減で500～600人、社会減で400～500人が減少している。総人口は165,500人で、このままいくと17万人都市ではなくなってしまう。

人口が東京などに集まっている中で、三重県でも四日市市周辺は人口が増加しているが、鈴鹿市から南は減少傾向にある。人口減少はボディブローのように効いてくる。消費に関して言えば、食費も減っていくわけで、スーパーも経営が成り立たなくなっていく。余計にさびれていく。それを食い止めるために、国の政策誘導ではあるが、都市計画区域の中に立地適正化計画を作ってコンパクトシティをめざしていくものである。

4月から南勢地域の高校があるまちの首長9人に会いに行った。うちのまちのことだが、ハローワークからの情報ではあるが、松阪市・多気郡では1年間で約1750人が卒業し、そのうち就職が4分の1、あとの4分の3は進学する。県内に大学が少なく、県外へ出ていく率が高い。出ていきやすい地域で、恵まれた地域であると思う。就職する約400人のうち、4割が市内へ就職している。4割が県内、2割が県外へ就職している。

このようなことを踏まえて、首長には、地元に残す取組に力を入れてもらうように依頼している。地域で働けることを知ってもらいたい。地元にもすごい企業があることを知ってもらいたい。そのためにも、全部の高校を回りたいので、首長に協力を依頼している。

若者が、ここに住み続けたいと思えるようにしていきたい。郷土愛を教えていく必要があると感じている。どこまで効果があるのかわからないが、なんとかしないと人口減少の波にのまれていくと感じている。なんとか社会減を食い止めたいと思っている。そのような観点から委員の皆さんからご意見をいただきたい。

会長)

竹上市長より若者を地域に残す取組について説明をいただきましたが、この件に関して各委員からのご意見等をいただきたい。

委員)

雇用状況はどうか。

市長)

松阪地域は1.58人の有効求人倍率である。受け皿はある状態である。

委員)

松阪の企業には、働く魅力がないのか。

市長)

雇用のミスマッチはあると思うが、良い企業があることを知らない。魅力を発信できない企業が多いと感じている。

委員)

地元や行政だけが頑張ってもダメな問題。学校の意識改革や企業の PR 力不足を補う必要がある。

委員)

良い企業の「良い」の解釈を変える必要がある。大学のキャリアセンターでも大手に就職させることが手柄となっている。

就職活動を WEB で行う時代になっている。中小企業では WEB の整理ができていない。また、WEB に載せるコンテンツを何にするか。給与を載せるなど、大企業と同じ土俵に上がっては勝負にならない。

大阪商工会連合会と合同で、CSR ガイドブックを作成している。中小企業の魅力をどう打ち出すか、役員が社員を大切にできる環境や役員との距離感など、コンパクトな良さや家族的な感じを伝えている。学生は、活躍できる場を求めているのに、そういうことが WEB に載っていないのが残念である。

委員)

求人の特徴や発信の仕方など、松阪全体がずれているのか。

委員)

中小企業全体がそんな感じである。昭和の時代から変わっていない。

委員)

3 年制の正看護師の学校があるが、毎年経営赤字を出している。就職先は優良企業もあり、就職の場も提供している。看護学校も大学になってきているが、今の学校を維持するだけでも苦しい状況にある。卒業すれば、ほとんどが市内に就職しているが、受験生も減っており、競争率が低くなり優秀な人材も減っている。現在は、ほとんどが市内の 3 病院に就職している。

委員)

ここに生まれて良かった、ここに育って良かった、ここで働いて良かったと発言する学生たちがいるまちと出会った。学生たちはお世話になったまちだと思っている。そんな発言をする学生を育てるには、学校教育だけでは無理。行政、教育、企業が同じテーブルで

議論する必要がある。みんながこのまちを、子どもたちをどうしていくのか議論する必要がある。話し合っていくことが大切である。

企業のあり方が問われている中で、ベネフィットコーポレーションという考え方がある。今までの株主へのベネフィットではなく、どうやって従業員にベネフィットしているかである。

これからの若者は今までの若者とは違う。ミレニアム世代の子たちは、今の世代とは明らかに違う。松阪の子たちも、世代特徴を持っていると思う。企業と行政と教育機関が一緒になって、企業を作っていく機運を高めるまちになってほしい。松阪はそんなまちになれると思う。

委員)

教育は、時間をかけないと答えが出ない。ピロリ菌検査も同じこと。続けていって検証していく必要がある。

数学者の岡潔さんが執筆した本を読んでもみると、戦後20年ぐらいに今と同じような危機感を抱いている。側頭葉ばかり鍛えるのではなく、前頭葉を鍛える必要があると言っている。成績は上がるが深い人間性や情緒が生まれれないと言っている。一昔前の今の世代は、自然の中で必要なことが本能的にわかっていたのではないか。より早く、より多く得ることが幸せにつながることを本能的にわかっていた。

時間はかかるが、松阪の野山や畑などで汗を流す小学校時代の楽しかった思い出があれば、都会に出てもコンクリートジャングルに耐えられなくなって帰ってくるのではないか。時間はかかるが、今スタートさせる時期であると思う。

委員)

昔の若者は、なりたい目標に向かって進んでいたが、今はやりたいことがいろいろあって、就職しても全然違うジャンルの仕事についてみたいと考えるのではないか。

ハンズオン支援を、各企業内や大学内で実施してはどうか。新事業を思いついたら後押しをする、アイデアを実現させる、喜びを与える場にしてはどうか。花を咲かせる工夫を行政と企業、教育機関がタッグを組んで取り組んではどうか。

市長)

自己実現をするための場づくりが働きながらできる体制づくりは、うちの職員にあってもいいのかも。

委員)

県外にいる子のなかには、帰ってきたい子もいるはず。どんな企業が近くにあるのか、簡単に企業を調べることができるツールがあればと思う。そんなツールがあれば、親からも発信できるのではないか。

市長)

産業支援センターでまとめてみたい。

委員)

県人会の中に松阪会はないのか。どこに松阪市の出身者がいるのかわからないものか。県人会を当たればわかるのではないか。

市長)

松阪会はない。県人会にあたってみる価値はある。

委員)

東京では、卒業生の会があり、ある程度わかるはずである。
若者が結婚して戻ってくるのはどれぐらいいるのか。

市長)

調べようがないのが実情である。

委員)

就職ではないが、しょっちゅう帰ってこれるチャンスがあるといいと思う。地元に戻るタイミングで愛着がわくのではないか。パートナーを連れて帰ってくることで、お互いのパートナーが故郷を知り、一年で一回くらいのつながりが定着するのではないか。ホームカミングウエディングになるように、戻ってきやすくする取組を。

委員)

アクアイグニス多気が同じ生活圏内にできるが、利用できないのか。

市長)

2020年に完成予定で、1500人程度の雇用規模になると思われる。多気町に大企業が進出した時も、勤める職員は松阪市に住んでいた。今回も期待したい。

委員)

外に逃がさない取組も必要だが、ここに来たくなるまちにしていく取組も必要だと思う。豪商のスピリットやマネジメントを学びたい人はたくさんいるはず。だが、どこに行けばいいのかわからない。学べる場の確保を。

市長)

今年から松阪学を学ぶ市民大学講座を始めた。今年は、計 10 回程度の講座になる。将来的には、出前講座までつなげていければと思う。歴史を紐解くだけでも楽しいと思う。

委員)

講師は、戦略的に呼んだほうが良い。こういう人に来てほしいという人を呼ぶべきである。

委員)

比較的長く続いている歴史の会でも、このままではダメだから役員を変えようという提案があった。確かに、50 代までの人に歴史を伝えるべきだと思う。青年会議所ががんばっていた時代は良かった。

また、松阪にはすごい製品や商品、経営者がいる。年配者の知恵も必要ではあるが、若い力も必要である。

松阪には、主婦という鉱山がある。もっと主婦が働ける環境を作るべきだと思う。勤務時間の制約はあるが、資格を持つ方がたくさん潜在している。そういう方を発掘できればと思う。

経営だけでなく文化の継承も若い人をお願いしたい。思い切った移行が必要だと思う。

委員)

国の施策は地方創生に向かっている。こういった形で地方を活性化させるかである。地元の産業支援は金融機関が行うこととの大号令もあるが、様々な情報を早くつかみ、情報を吸収して花を咲かせる仕組みを考えなければならない。産業界のみならず、自治体も考えるべきである。

市長自らの使命は、様々な情報を仕入れ、吸収すること。市民にもわかる形で見せて、みんなで参加できるものを作り上げてほしい。松阪市の文化を大切にしてほしい。

会長)

ほかにご意見はございませんでしょうか。

少し時間を過ぎてしまいましたが、本日の議論はここまでとさせていただきます。

では、進行を事務局に戻します。

事務局)

ありがとうございました。

では最後に、次回開催について、ご連絡させていただきます。

次回は、7月27日(金) 午後1時30分より開催させていただきます。

あらためて、ご案内させていただきますので、ご予約をお願いいたします。

以上をもちまして、第 11 回松阪市政推進会議を終了させていただきます。
ありがとうございました。

《午後 3 時 35 分 終了》